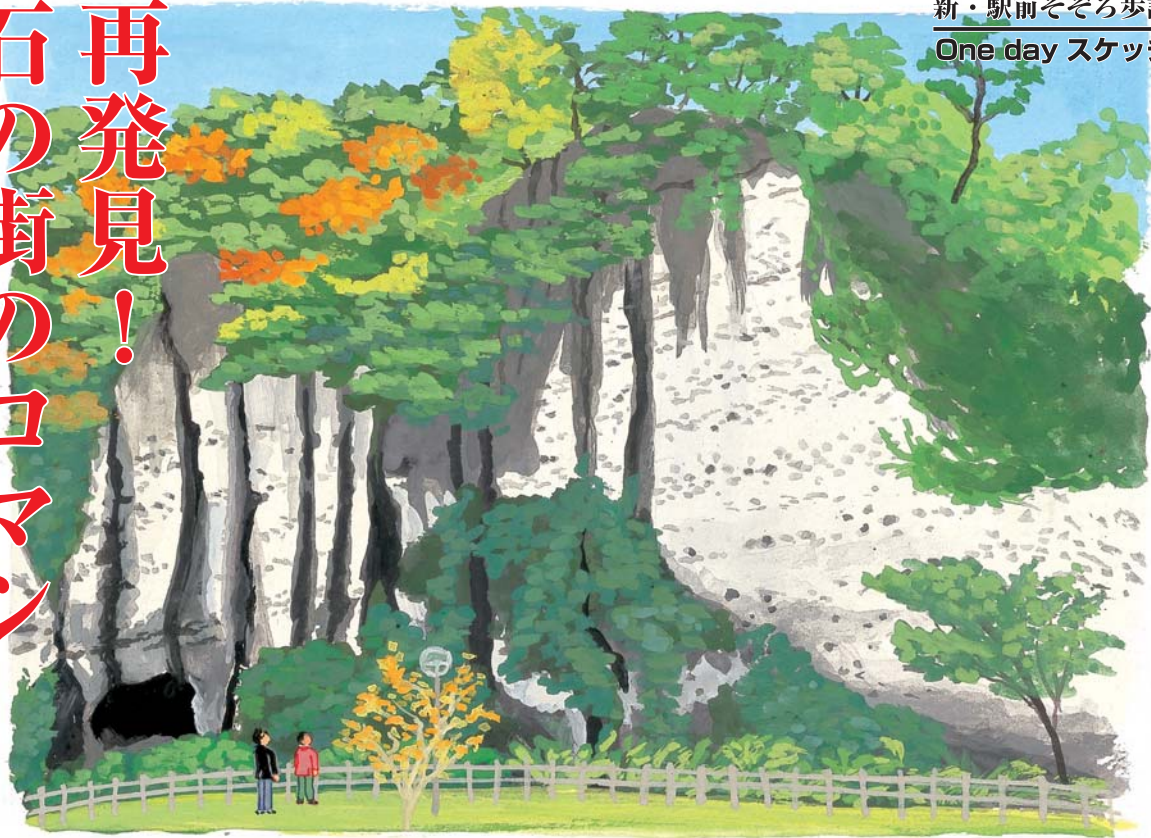


再発見! 石の街のロマン



あずまの父、鉄男です。今月は会社の同僚の篠塚さんと一緒に、栃木県の宇都宮を訪れました。ここは「大谷景観公園」。巨大な地下採掘場のある「大谷資料館」は休館中ですが、岩肌と松が調和した「陸の松島」の見事な景観を堪能できました。(MAPの①)

今日の登場人物



篠塚 茂美

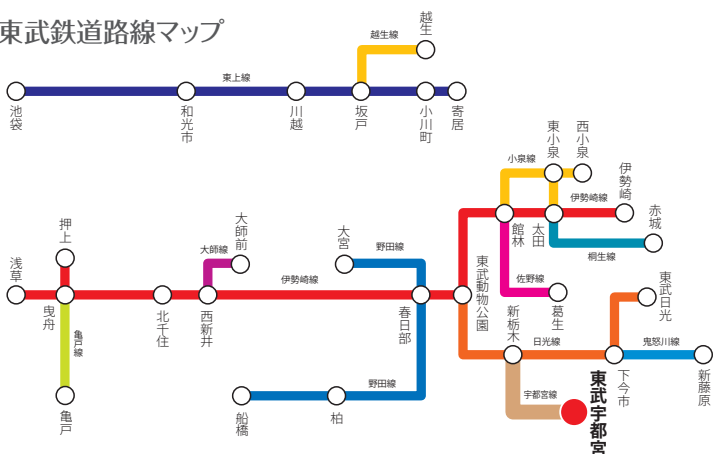
鉄男と同じ職場に勤める会社員。趣味は歴史と絵を描くこと。



業平 鉄男

あずまの父親。食品会社に勤めるサラリーマン。ジャズと歴史が趣味。

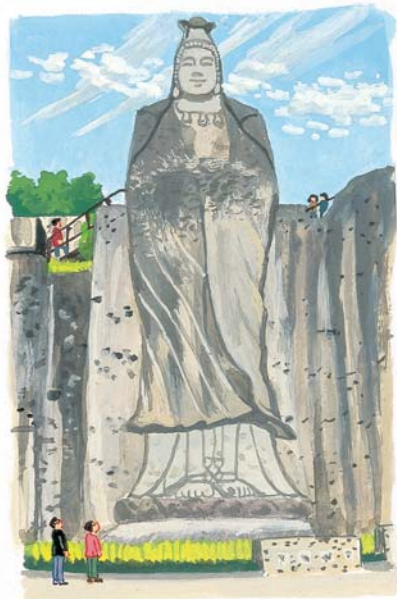
東武鉄道路線マップ



東武宇都宮

(とうぶうつのみや)

今年、開通80周年を迎えた東武宇都宮線。その起点となるのが「東武宇都宮」です。栃木県を代表する都市だけに、明るく開けた通りには深い歴史とロマンが薫ります。建造物を彩る大谷石の故郷を近郊に訪ねれば、悠久の景観も圧巻。改めて宇都宮という街の大きな魅力に気づきます。もちろん、お楽しみ、は数多く、餃子に加え、カクテルやジャズの街としても有名ですから、この機会に、トワイライトタイムをスイングするのも素敵でしょう。



まずはバスで「石の窟・大谷」へ。大谷公園に立つ「平和観音」には、高さ27m、胴回り20m、顔の長さ5mという大きさをで圧倒されました。「大谷景観公園」「大谷寺」を巡り、再び駅前へ。
(MAPの⑧)

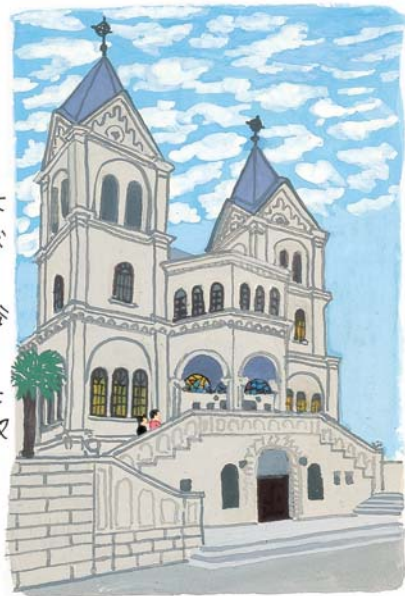


北千住から特急「スーパーシア」で栃木へ。そこから宇都宮線に乗り換え、ゆっくりと宇都宮に向かいました。今年は何んといっても「東武宇都宮線開通80周年」です。

樹齢約400年の「大いちょう」です。戦時中に空襲で丸焼けになったにもかかわらず翌年に新しい葉が芽吹き市民を元気づかせ、戦後復興のシンボルとして市民に親しまれているそうです。黄葉した姿もキレイでした。
(MAPの⑨)



東武宇都宮駅そばにある「カトリック松が峰教会」です。昭和7年に完成した、大谷石を使った代表的な建築物。正面にロマネスク様式の双塔をもつ姿には、うっとりと思えます。
(MAPの⑩)



石の文化を背景に 宇都宮ロマン散策

「宮つ子たちのミヤセン」として親しまれる東武宇都宮線の開通は昭和6年。今年で80周年を迎えました。そもそも宇都宮特産の大谷石を、新栃木経由で東京まで輸送するために開通させた鉄道でした。そうした歴史を偲ばせるように、いまでも街並みには大谷石の建造物が多く、時代に磨かれた石蔵、老舗からモダンな設計の邸宅や公共施設まで、あちこちで石の文化と出会えます。

なかでも「東武宇都宮駅」のすぐ近くに建つ「カトリック松が峰教会」は必見です。昭和7年から街のランドマークとなってきた聖堂は、2つの尖塔をもつロマネスク様式で、国の登録文化財。スイス人建築家ヒンデルによる傑作で、現存する大谷石造りの教会としても最大の規模といわれ、その優しい美しさには胸打たれます。

「そういえばウチの塀も大谷石だった」という方も多しはず。この大谷石の産出地、大谷エリアへは、駅前から市内バスで気軽に訪ねられます。耐火性に優れ、加工しやすいなどの特性と美しい表情に富む石は、日本列島の大半が海中にあった頃、火山灰や砂塵が石化したものが。それだけに「大谷景観公園」周辺を歩くと、剥き出しの岩石がそそり立ち、圧巻のワンダーランドです。岩並みの中、秘境の寺さながらに建つ「大谷寺」に祀られる神秘的な千手観音は、日本最古の磨崖仏といわれます。また、野外劇場のような空間に忽然と現れる「平和観音」は高さ27m。大谷石の絶壁に6年の歳月をかけ、全て手で彫り出されました。改めて宇都宮の奥にある魅力に気づく景観です。



宇都宮に来た以上、やはりランチは餃子の美味しい店で。というわけで本場の味を二人で堪能してきました。11月5日～6日にかけて、市内各所を会場に「宇都宮餃子祭り」が開催され、特別価格で餃子が食べられるそうです。



東武宇都宮駅から東に約500mにわたってのびるアーケードは、宇都宮で一番の賑わいを見せる「オリオン通り」。音響・照明設備を供えたステージをもつイベント広場もあり、ジャズをはじめ音楽会も開かれていますよ。(MAPの⑥)



ここは「宇都宮城址公園」です。2007年に開園し、宇都宮城の本丸の一部(櫓・基・土塀・土塁・堀の一部など)を復元したものです。清明館・宇都宮ものしり館という展示施設もあり、より詳しく歴史を学べますよ。(MAPの⑦)



下野一の宮「二荒山神社」にやってくると、歴史好きの篠塚さんは興奮ぞみ。平将門の乱の平定祈願に藤原秀郷が、奥州藤原氏との戦勝祈願に源頼朝が訪れた古社ですから。境内には与謝蕪村の句碑もありました。(MAPの⑧)

地よくスイングしながら過ぎていくでしょう。

こうして宇都宮散策は、星がまたたくまで、心

（渡辺貞夫氏を筆頭に、多くの名プレーヤーゆかりの地ですから、本格的なジャズスポットやライブハウスが点在し、日常的にジャズが流れます。

そのジャズを聴きながら楽しむ「カクテル」の街としても、宇都宮は注目です。数多くの名パーテンドアーを輩出しているという土地柄。名物パーテンドアーが腕をふるうパーも、オリジナルカクテルの数もバラエティ豊か。たとえば「宇都宮東武ホテルグランデ」で、「ミヤセンカクエキカクテル」はいかが？ ホテル開業20周年と東武宇都宮線開通80周年を記念して、東武宇都宮線各駅のイメージが、それぞれカクテルになっています。

同時に近代的な発展も目を引きます。駅前から延びる「オリオン通り」など、今、を発信する繁華街には面白い発見があるはず。

街歩きのお楽しみもまた充実。まず、余りにも有名なあの「餃子」はますます人気。11月5日・6日には恒例の「宇都宮餃子祭り」が開催されるなど、いまなお全国的に話題を呼んでいます。

一方、ここは「ジャズ」の街。世界のナベサダ

（ふたあやま）が、いまも町の中心にあるように、まず門前町として賑わいました。さらに江戸時代には「宇都宮城址公園」に再現された2基の櫓が象徴するように、城下町として栄えました。何気なく見上げた街角の「大いちょう」にさえ、樹齢400年の歴史が漂います。

餃子もいいけど…カクテルやジャズライブでも、おいしい街



帰りは新幹線で。出発時間まで、ジャズのライブを楽しめる店へ。「ジャズの街」でもある宇都宮ですから、私には外せないスポット、篠塚さんに付き合ってもらいました。歴史とジャズと、二人の趣味が満喫できた旅でした。



「カクテルの街」宇都宮、というわけで「宇都宮東武ホテルグランデ」へ「ミヤセン カクエキカクテル」を味わいに。私はウオッカバースの「ジャズに包まれながら」、篠塚さんは日本酒バースの「平和を願う」で乾杯！ (MAPの④)



大谷寺の本尊
大谷観音



東武宇都宮データファイル

〈大谷観音〉・・・●交通＝東武宇都宮駅から関東バス「東武駅前」から「立岩」行き約30分、「大谷観音前」下車徒歩2分 ●受付＝9:00～16:30(11月～3月)、8:30～17:00(4月～10月) ●定休日＝1月・2月・3月の第2・第4木曜、12/19～12/31 ●拝観料＝300円
☎028-652-0128
〈宇都宮城址公園 清明館歴史展示室/宇都宮城ものしり館〉・・・●交通＝東武宇都宮駅徒歩10分 ●開館時間＝9:00～19:00 ●入館料＝無料 ●休館日＝年末年始 ☎清明館☎028-638-9390
〈宇都宮東武ホテルグランデ ミヤセン カクエキカクテル〉・・・●交通＝東武宇都宮駅徒歩5分 ●提供時間＝17:00～19:00(L.O.18:30 /1階「カフェレストラン オアシスルース」)、19:00～21:30(L.O.21:00 /2階 鉄板焼「下野」) ●料金＝各500円 ☎028-643-2140

Reader's Voice

【読者のページ】

ながら脳内トリップしてしまいました。さっそく行つてみます！

（野田市・吉岡なつき）

●「とーぶ」の記事の中でピンときた下赤塚駅。もう行かれませんか？美術館で芸術の秋を堪能されたでしょうか。

35年前に新婚生活を送った板橋区赤塚の街。ヨチヨチ歩きの花と遊んだ赤塚溜池公園、赤塚城跡の広場、乗蓮寺の東京大仏等、下赤塚を企画した新・駅前そぞろ歩記の記事を、懐かしく妻と読みました。

伊勢崎線に引越して28年、久喜から散歩で和戸駅、幸手駅、鷲宮駅まで歩くこともあります。そのとき沿線で東武電車を撮るのが楽しみでした。

（久喜市・屯田兵）

●快晴の空の下を走る東武電車の写真、ありがとうございます。それから、権現堂堤の真っ赤な見事な彼岸花の写真も。

結 婚して北関東に引越してきて早や20年。転勤があり、あちこち引越しは続きますが、いつも東武線にお世話になっています。車の運転ができない私にとって、本当に頼りになる存在です。

秋空の美しい日々が続きますが、久しぶりに大好きな館林美術館に行つて、大きな窓からゆつくり空を眺めたいと思います。

（太田市・のりつママ）

●群馬県立館林美術館は伊勢崎線の

多々良駅が最寄りです。皆さんもぜひ訪れてみてください！ そういえば、多々良沼にはそろそろ白鳥がやってきましたね。

山 や高いビル、見晴らしの良い所に行くのと、富士山が見えるというのが楽しみの定番でした。が、この頃は東京スカイツリーに変わってしまった。

あの尖った鉛筆のような形が気持ちよい。先日は奥多摩の633mの山に登った。東京スカイツリーは見えなかつたけど、この高さプラス1mなんだ、と思った。まさにランドマークの王様です。

（ふじ野市・廣本礼子）

●なるほど。その633mの奥多摩の山に登ると、東京スカイツリーの高さが実感できそうですね。

先 日、新栃木駅から区間急行に乗りました。鹿沼方面からの接続を待つて発車しましたが、接続電車が到着すると、駅の係員が接続電車の中を一巡して、車内に人が残っていないことを確認してから区間急行の車掌さんに合図して発車している光景を見ました。

乗り遅れがないように、との細かい配慮に感心。おかげでその日はいい旅ができました。

（宇都宮市・押野隆志）

●お役に立てて何よりです。今月号のそぞろ歩記は東武宇都宮でした。いかがでしたか？

「駅と電車内のマナーアンケート」を 実施中！

東武鉄道を含む大手民鉄16社が加盟する(社)日本民営鉄道協会では、10月1日から11月30日まで、「駅と電車内のマナー」に関するアンケートをホームページ上にて実施しています。

アンケート結果は、12月中旬に日本民営鉄道協会ホームページで発表し、また集計・分析することで、今後の協会活動に役立ててまいります。

皆様からの貴重なご意見をお待ちしています。

日本民営鉄道協会ホームページ
<http://www.mintetsu.or.jp/>

このページでは、本誌に対する感想やご意見など、読者の皆さんの声、を募集中！ 入手先をお書きのうえお寄せください。掲載させていただいた方には粗品を進呈。なお、お送りいただいた原稿や写真は返却できませんのでご了承ください。

先) 〒131-0002

東武鉄道 広報部
〈あ) マンスリーとーぶ「ボイス」係

私 の実家は、東武伊勢崎線と直通している東急田園都市線の沿線にあります。神奈川県民には遠い存在だった埼玉県が、この直通運転で一気に身近になりました。

両親は来年の東京スカイツリーの開業予定日（5月22日）に、結婚35周年を迎えます。東京スカイツリーと共に祝いできれば、と考えています。

（韋加市・キノコ）

ト ラベルライターの横見浩彦さんのインタビュ記事を読み、

よく電車旅をしたくなりました。自分がピンときた駅で降りて、お散歩をする。そういうのが私、大好きなんです！！

そこへちよつと「下赤塚」の新・駅前そぞろ歩記が載っていて、読み

編集雑誌

先日、錦糸町の東武ホテルレバント東京のレストラン2店がリニューアルオープンしました。特に24階のスカイツリー®ビューレストラン&バー「簾」から眺める東京スカイツリーは絶景でした。和をベースに洋を取り入れた「創作料理」も産地にこだわった素材を使用していて絶品。休日の昼間に食事を楽しみながら秋晴れの東京スカイツリー®を堪能するには最高のロケーションですね。編集担当：R I



●東京スカイツリー®羊羹
問い合わせ先：
東武百貨店池袋店 B1F6番地
待月庵（金沢和音）
☎03-3981-2211（代表）

ヨーカンの塔!?

そろそろ温かいお茶をいれて、羊羹ようかんでも切ろうか？
 というと、母は「あなたも羊羹の良さが分かるトシになったのね」と笑った。私は内心驚くなよ~と思いつつ、おもむろに不思議な羊羹を取り出して見せた。「えッ！」とたじろぐ顔が、まず愉快。実はこの「東京スカイツリー®羊羹」。最近増えている和菓子好きな若者の間でも、かなり人気を呼んでいるらしいけど、パッケージからして意表をついている。一見ステーションナリーのような白い紙筒で、スカイツリーがきれいな細密画で描かれているのだ。ただし、絵は第一展望台までなので、なぜだろうと思いつたを引くと、なんとスルスルと筒が伸び、お馴染みのゲイン塔の姿まで見事に完成する仕掛け。日ごと空に向かい伸びていったスカイツリーを表して、センス

のいいギミックが面白い。

箱に収まった羊羹そのものも、もちろん筒型。これを切り分けていただく。肝心なお味は、北海道産小豆で丁寧に仕立てているだけに、風味よい煉り羊羹。すっきりした甘さが嬉しい。

羊羹といえば、子どもの頃、その難しい漢字が妙に気になったもの。発祥は中国で、古くは羊肉を入れた羹あつもの、つまりスープ料理の一種だったとか。それが禅僧により渡来して室町時代には点心となったらしい。以来、煉りあり、蒸しあり、水ありと、この元祖スイーツは、時代のアレンジで多彩にスタイルを変え発展し続けている。そう考えれば、たとえ「東京スカイツリー®羊羹」のような趣向があったって、なんの不思議もないわけだ。

ところで、ペろっと二切れ召し上がった母は、意外と騒がず「いけるわね」と満足気。近頃の中高年は時代への順応だって素早い。いずれにしても秋深く、羊羹を楽しむ“大人の時間”は始まっている。

冬の華、演出

いま、秋冬のモードでも国際的に注目のフリル・アイテム。なかでも、このストールが目を引くのは、やはり京都・西陣で織られたという伝統によるものでしょう。絹ならではの質感に、新素材をスパイス風に効かせた3重織り。その技術とデザインが、花のような表情と新鮮な立体感を生み出しました。やわらかく肌に触れる感触も、ほど良い温かさも快い。ニュアンスに富む深い色調が、さり気なく印象に残ります。

●SIEVAの「フリルストール」。素材は絹93%・ナイロン6%・ポリウレタン1%の3重織り。柔らかく軽い感触と曲線を活かしたフリルが花びらのような表情をつくりだす。カラーパリエーションは5色。各6,825円(税込)。日本製。



池袋店 6F7番地 デザイントゥデイ

TOBU

池袋 東武

豊島区西池袋1-1-25 〒171-8512 TEL.代表/03-3981-2211

<http://www.tobu-dept.jp>

営業時間・午前10時～午後8時

B2F～3Fは日曜・祝日を除く毎日午後9時まで営業。

9F・10Fは毎日午後9時まで営業。

11月は全館休まず営業いたします。

